

山陰海岸ジオパークの地域資源 を生み出した地質学的要因

地域資源マネジメント研究科

准教授 さきやま 先山 とおる 徹

キーワード

山陰海岸、ジオパーク、地質学、食、観光、ズワイガニ、
但馬牛、日本酒、地域資源、地域づくり

研究概要

ジオパークとは、地質や地形的な見どころを中心に、自然・歴史・文化などの地域資源が多く存在する地域である。そのうちユネスコが推進するユネスコ世界ジオパークには、世界で 127 地域、日本で 8 地域が認定されている（2017 年 8 月現在）。そのうち山陰海岸ジオパークは京丹後市・豊岡市・香美町・新温泉町・岩美町・鳥取市を含んだ日本では最大規模のユネスコ世界ジオパークである。本報告では山陰海岸ジオパークの食として重要な日本酒・ズワイガニ・但馬牛について、地質・地形の関係について述べる。

結果の概要は以下のようである。

（1）山陰海岸ジオパークの大地の歴史は大きく「大陸の時代」「日本海形成の時代」「日本列島の時代」に分けられる・

（2）「大陸の時代」には主に花崗岩が形成された。花崗岩中を浸透した豊富な水は鉄分が少なく酒造りに適しているため、山陰海岸ジオパーク内の酒蔵 16 ヶ所のうち、13 ヶ所が花崗岩地域に存在する。

（3）「日本海の形成の時代」には、日本海が断裂・拡大して深い海が形成された。その結果、陸から近くにズワイガニやベニズワイガニなどの深海にすむカニの漁場が存在し、おいしいカニが提供されるようになった。

（4）「日本列島の時代」には内陸の山地で活発な火山活動があった。硬い溶岩からなる山地は狭く深い谷を作り、谷毎に但馬牛の血統を守ることとなった。また溶岩からなる平坦な尾根は、但馬牛の放牧場ともなった。

以上のように、大地の成り立ちの歴史が山陰海岸ジオパークの食産業を生み出してきたと言える。

アピール ポイント

ジオパークの推進の目的は地域を元気にすること、地域に誇りを持ち生き活きと暮らせる地域を作ることにある。そのためには、そこに住む人々が地域を知り、そこにある地域資源を守るとともにブランド化していき、地域の経済活動につなげていくことが大切である。近年盛んになっている日本遺産のストーリー構築や地理的表示保護制度も同様で、単にモノを売るのではなく、その背景にあるものの価値を売ることが重要となってきている。この研究は地域資源の価値を見出しブランド化を手助けするものである。このような地質学的な見方で地域資源をとらえることは、ジオパークに限らず観光や地域づくりの分野で活用可能である。